

【背景・目的】高次捕食者による生態系変動をモニターする役割に着目し、北海道沿岸海域に多く分布する高次捕食者であるカマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* について、生態系変動の指標として利用する上で重要である分布と食性を把握することを目的とした。

【材料・方法】カマイルカのバイオプシー調査については、2014 年 9 月 28 日～10 月 14 日にかけて、厚岸臨海実験所の「みさご丸」にて行った。カマイルカを発見して接近し、クロスボウを用いて先端に皮膚採取用のチップが付いたアローをカマイルカに向かって当て、カマイルカの皮膚を採取した。カマイルカの見視調査は、2009、2011～2014 年の夏季から秋季にかけて北海道大学練習船「うしお丸」にて行った。餌生物環境については、うしお丸に搭載されている計量魚群探知機 EK 60 (SIMRAD 社) によって 38 kHz の音響データを記録した。さらに、海底地形のデータは日本海洋データセンター (JODC) から、平均水深データを引用した。

【結果・考察】みさご丸によるバイオプシー採取調査では、5 群 73 頭のカマイルカの発見があり、そのうち、1 個体のバイオプシー採取に成功した。しかし、サンプル数がたりないため、今後サンプル採取方法の検討をするとともに、調査回数を増やして行きたいと考えている。見視調査では、合計で、130 群 1996 頭のカマイルカを発見した。カマイルカは特に根室海峡および北海道南東部沿岸海域において多くが発見され、水深 100m 以浅の海域に多く分布していた。計量魚群探知機により得られた音響データから、カマイルカが

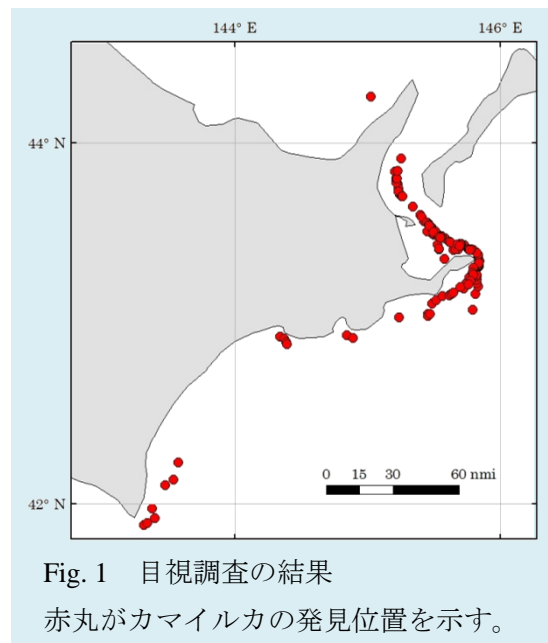


Fig. 1 見視調査の結果  
赤丸がカマイルカの発見位置を示す。

多かった水深 100m 以浅の海域と、分布確率が低くなる水深 100m より深い海域で、100m 以浅の表層魚群量を比較すると、カマイルカの分布していた水深 100m 以浅の海域の方が表層魚群量が多かったことから、北海道東部海域においてもカマイルカは表層性の魚類を多く捕食しており、表層性魚類を捕食しやすい浅海域に分布していることが考えられた。